



校長だより／入学式	2
編入学生紹介／新入留学生紹介／留学生歓迎会	3
新任教職員紹介	4・5
特集 ゴミのポイ捨て問題を考える	6
特集 有明高専アーカイブ	7
4年生研修旅行	8・9
新入生阿蘇オリエンテーション	10

2年生研修旅行	11
新入生歓迎行事／防災避難訓練／授業参観等	12
岱明寮だより	13
春季球技大会／卒業式・修了式	14
卒業生・修了生の進路／学生表彰	15
トピックス／編集後記	16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。  
(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年 - 組)

## 校長だより



今年2月末に内閣府で第1回「グローバル人材育成推進会議」が、国家戦略担当大臣を議長に外務、文部科学、厚生労働、経済産業の4大臣が出席して開催され、危機感をもって人材育成対策を講じることになりました。東大をはじめとする大学の秋入学導入の検討に見られるように、国際化への遅れを高等教育機関も真剣に対応し始めました。実はこれは留学生の単なる増加を目論むのではなく、日本の開国に向けて、高等教育機関の組織改革が動き出したと考えています。本校の入学式でも「日本の将来を担う若者の最近の内向き志向に危機感を抱き、大学は国際化への取組みを昨今加速している」と述べました。グローバル人材の育成に向けて文部科学省内に教育改革推進タスクフォースが副大臣の下に設置され、今年度予算に改革推進経費が盛り込まれています。高等教育機関における入試や教育プログラムがここ数年で大きく変わるものではないかと思います。東大などの主要大学12校と日立製作所など主要企業20社で構成する「産学協働人材育成円卓会議～日本復活のために～」の第2回会議が5月初旬に開催され、世界を舞台に活躍できるグローバル人材の育成など7つのアクションプランをまとめ公表しました。

このような状況の下、国立高等専門学校機構は「社会のための高専」として、これまで高専が得意としてきた地域連携にこれから問われるグローバル展開を加えた2点の課題に重点的に取組むことになりました。本校は以前から地域連携を積極的に行っており、有明地域からその貢献を高く評価されています。具体的な活動を毎年発行される学校要覧に記載しています。新たな取組を毎年実施してきましたが、今年は科学技術振興機構（JST）支援「次世代科学者育成プログラム」に本校が申請した取組が採択され、有明地域の中学生10名を対象に環境問題エリート教育を実施します。このJST支援プログラムには東大、九大、慶應大などの12大学と有明高専の申請が採択されました。

もう1つの課題のグローバル展開では、本校はシンガポール・ポリテクとの学生相互交流、遼寧石油化工大学との交流、物質工学科4年生のシンガポール研修旅行をこれまで行ってきました。今年は機械工学科4年生の韓国研修旅行が新たに加わりました。しかしながらまだ、国際交流、海外研修、海外インターンシップなどは活発であるとはいえ、その基盤となる学生の英語能力（TOEICスコア）やコミュニケーション能力などは低いと言わざるを得ません。3年前から開始された文部科学省の国際化拠点整備事業（グローバル30）に採択された13大学では、英語による授業が行われています。英語による授業は上記のグローバル人材育成推進の旗の下に他の大学にも広まり、主要大学では一段と加速されようとしています。高等教育機関の教育改革の動きを的確に捉え、本校版グローバル人材育成プログラム案を作成して、時代の流れに遅れることなく、学生教育の充実を図って行きたいと考えています。

このような状況の下、国立高等専門学校機構は「社会のための高専」として、これまで高専が得意としてきた地域

## 教育改革のうねり

校長 立居場 光生

## 入学式・入寮式

4月6日（金） 広報室

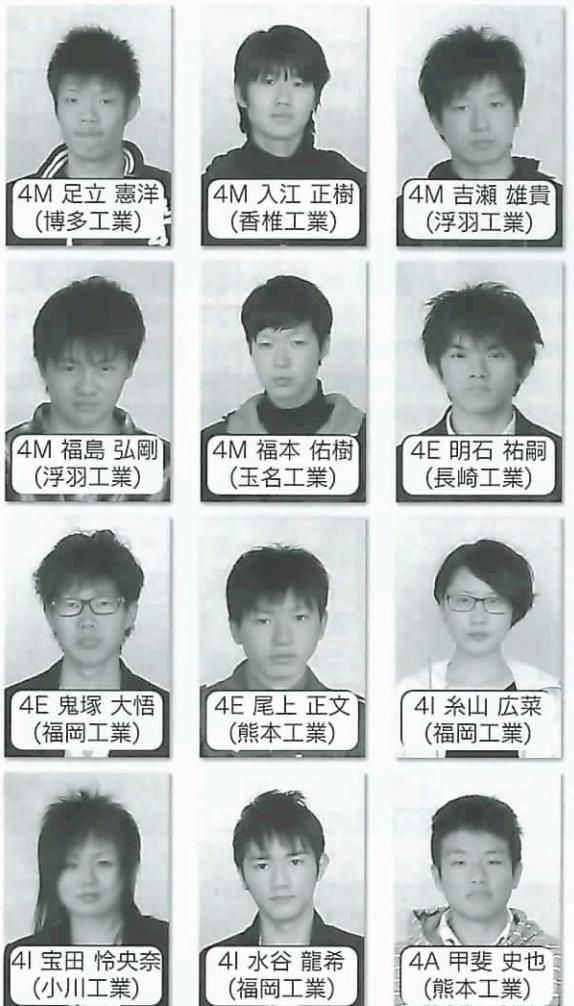
4月6日（金）10時より、本校第1体育館において、平成24年度入学式が行われました。本科に、機械工学科42名、電気工学科40名、電子情報工学科41名、物質工学科42名、建築学科40名の合計205名が新入生として入学しました。専攻科には、生産情報システム工学専攻20名、応用物質工学専攻7名、建築学専攻5名の合計32名が入学しました。また、工業高校から4年次編入生として合計12名が、マレーシアとモンゴルからの留学生1名ずつが3年次編入生として、東京高専からの2年次転入生1名が転入しました。立居場校長による入学許可や式辞、大牟田市長および荒

尾市長による祝辞、1年生代表として電子情報工学科の福永優作君および専攻科生代表として生産情報システム工学専攻の米田宗広君による誓詞、そして教職員紹介等が行われました。

また、12時10分より、視聴覚室において、入寮式が行われました。本年度は、93名の新入生が入寮しました。立居場校長による入寮許可に続いて、校長訓話、橋本寮生保護者会長による祝辞がありました。また、入寮式後、寮務主事室スタッフによる入寮オリエンテーションが行われました。



## 編入学生紹介



## 新入留学生紹介



3M ズル（アハマド ズルキフライミン）はじめまして、マレーシアからきたズルと申します。今年の4月に有明高専の機械工学科に留学して参りました。

マレーシアは多民族の国です。例えば、マレー系民族やインド系、中国系などです。

それから、民族によって、違った宗教を持っています。いろいろな民族があるから、いろいろな文化があるはずです。本当におもしろいこと思います。

マレーシアは季節がない国ですが、日本では4つの季節を経験することができます。

有明高専でいろいろなことを知りたくて、いっぱい友達を作りたいと思っています。努力して、みんなと一緒に卒業して、いつかすばらしいエンジニアになりたいです。



3C ホソ（ペヘバータル ホスズル）私の名前はホスズルです。モンゴルから来ました。今有明高専の物質工学科の3年生です。

モンゴルについてちょっと紹介したいと思います。モンゴルはユーラシア大陸の中央にあります。国土の総面積は157万km<sup>2</sup>で、1人あたりの面積では世界のトップです。人口は263万人で日本の人口の40分の1で、面積は日本の4倍です。その内80%が遊牧に適した草地です。

モンゴルは春、夏、秋、冬の4つの季節があります。一番暑いときは平均気温が25度です。一方、一番寒いときは冬で平均気温はマイナス28度にも達します。

これから、みんなと仲良くしてがんばっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 留学生歓迎会

4月25日（火） 国際交流委員長 安部 規子

平成24年度の留学生歓迎会が4月26日（木）、合同教育南棟にて開催されました。今年度はマレーシアからズル君が、モンゴルからホソーさんが有明高専に来られ、それぞれ3Mと3Cのクラスで勉強することになりました。当日は2人のクラスの学生もたくさん出席してくれて、会場は大変にぎやかでした。

校長先生や日本語の坂口頬孝先生始め諸先生方からの温かい歓迎のあいさつに続き、3C国武大和君と1C国武直輝君の兄弟による三味線演奏が行われ、日本の伝統文化を紹介するよい機会となりました。また、民族衣装を着たズル君とホソーさんのスピーチや母国紹介もあり、その流暢な日本語に一同感銘を受けました。今後ズル君とホソーさんが元気で楽しく充実した高専生活を送ってくれるよう祈念しています。



## 新任教職員紹介

本年度新たに赴任された12名の教職員の方々に、次のことをうかがいました。



電子情報工学科 助教  
森山 英明

A1: 岡山大学大学院自然科学研究科に在学し、オペレーティングシステムに関する研究を行っています。  
A2: 有明高専は綺麗に整備されており、学習環境として最適だと思います。また、有明高専の学生は、明るく元気の良い学生が多いという印象を受けました。  
A3: 卓球です。中学校と高校では卓球部に所属していました。有明高専では卓球部の顧問になりましたので、学生の引率や指導を通じて卓球に関わっていきたいと考えています。  
A4: 学生の成長に役立てるよう精一杯努力していきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。



物質工学科 助教  
大河平 紀司

A1: 福岡県産業・科学技術振興財団(通称ふくおかIST)の研究員として、北九州市立大学国際環境工学部にて機能性高分子材料に関する研究をしていました。  
A2: 私が佐世保高専出身のためか、何か懐かしい感じがします。  
A3: 多趣味でピリヤード、野球、バンド演奏、車といろいろ好きですが、今は愛娘と遊ぶことが一番の至福の時です。  
A4: 学生の皆さんに世界で戦える知識・科学技術を身に着けることができるよう、私も日々勉強しながら全力で頑張りたいと思います。



建築学科 助教  
岡本 則子

A1: 大分大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで、ポスドク(博士研究員)として、建築音響に関わる研究を行っていました。  
A2: 自然に溢れ、静かで落ち着きがあります。また、素直で親しみやすい学生さんが多いと思います。  
A3: サッカー観戦と映画鑑賞です。サッカーに関しては、大分県出身のため、10年近く大分トリニータを応援しています。今後は福岡や熊本の試合にも足を運びたいです。  
A4: 教員1年目として学ぶことの多い中、学生さんと共に自分自身も成長していくよう、精一杯頑張りたいと思います。



一般教育科 助教  
青影 一哉

A1: 岡山大学で研究員をしていました。その傍ら高校と高専で数学を教えていました。  
A2: 正門前にある桜が印象的でした。また、明るく元気な学生が多いと思いました。  
A3: 今のところ趣味と言えるようなものはありませんが、これから見つけたいと思います。  
A4: 教育、研究の両立を目指して頑張りたいと思います。



総務課 調達管理係  
岩崎 宏介

A1: 九州大学教育学部に在籍し、日本殖民地教育史を専攻しておりました。ちなみに出身高校は、地元・大牟田の三池高校です。  
A2: 「豊かな自然」と「活き活きとして学ぶ学生」に囲まれた、素晴らしい学校だと思います。  
A3: 長時間運動すること(ランニングや登山など)が趣味で、昨年9月には大学の友人4人と富士山に登ってきました。また最近家で飼い始めたビーグル犬の散歩が、朝の出勤前の楽しみになっています。  
A4: 一日でも早く仕事を覚えて、本校のため、ひいては地元・大牟田のために少しでも貢献できればと思っております。よろしくお願ひいたします。



総務課 調達管理係  
河野 佐和子

A1: 出身は福島県です。東京のNECに勤務、その後名古屋の税理士事務所で働いておりました。  
A2: 美しい桜やたくさんの緑にかこまれ大きな声で挨拶をする学生に、かつて我が子の授業参観で訪れた学校風景と重なり感動しました。  
A3: プロアマ問わずコンサートへ行き、生の演奏を聞くことです。  
A4: 心地よい緊張感の中で日々仕事をさせていただけることに感謝しながら、少しでも、お役にたてるように頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

## 転出職員紹介

平成24年3月末で転出された職員の方についてお知らせします。

高嶋 重俊 学生課長 → 熊本高等専門学校(熊本キャンパス) 学生課長

有田 順一 学生課 図書情報係長 → 九州大学附属図書館伊都地区図書課企画運営係長

Q1: 本校に来る前は? Q2: 高専あるいは本校学生の印象は? Q3: 趣味は? Q4: 抱負を一言



学生課長  
野口 修

A1: 佐世保高専学生課長でした。  
A2: 校舎(案内掲示を含み)がよく整備されていると感じました。  
A3: 映画鑑賞と  
A4: 学生支援に役に立てるよう尽力したいと思っています。



学生課 図書情報係長  
渡邊 真由美

A1: 国立女性教育会館情報課図書係に所属していました。  
A2: これまで働いてきた大学とは違う雰囲気ですので、毎日が新鮮です。学生が元気よく挨拶してくれるのはうれしいです。  
A3: 買い物や料理をするのが好きですが、今は子供が小さいので、仕事と家事に追われてばたばたと過ごしています。久しぶりの九州ですので、時間ができたら旅行にも行きたいです。  
A4: 学生や教員の皆様に気持ち良く使ってもらえる、楽しい図書館を目指して頑張って行こうと思っています。



学生課 教務係  
八頭司 由起

A1: 佐賀市役所に勤めていました。  
A2: 校内を歩いているとたくさんの中学生が挨拶をしてくれることに驚きました。明るく元気な学生の皆さんから元気をもらっています。  
A3: 散歩をすることが好きです。まだ、あまり知らない大牟田の街を散策し、面白い場所を発見したいと思っています。  
A4: ご迷惑をおかけしておりますが、皆様の快適な学生生活のお役に立てるよう努力してまいります。よろしくお願ひいたします。



学生課 学生支援係  
中村 宏美

A1: 専業主婦で子育てに専念していました。6年ぶりに社会復帰しました。  
A2: 学生の方から元気に挨拶してくれます。勉強に部活動に、頑張っている印象を受けました。  
A3: 手芸、木工など何か作ることや映画鑑賞が趣味です。今年はスポーツに挑戦したいと思います。  
A4: 皆さんにご迷惑ばかりおかけしています。早くお役に立てるよう頑張ります。



学生課 審務係  
辛川 昌美

A1: 基本、主婦です。(仕事はいろいろ経験しております。)  
A2: 昔から寮生は近所の方々にも気持ちの良い挨拶をしていましたが、寮内では更に元気の良い挨拶ができるとして感心しています。  
A3: 加齢によりあきらめたものも含めたくさん。特に好きな作家は浅田次郎さんです。  
A4: 寮生みんなの顔と名前を覚えること。そして、寮生が安心して生活できる手助けができるといいな、と思っています。



地域共同テクノセンター  
中嶋 史絵

A1: 有明高専建築科を卒業後、熊本の施工会社で8年間、設計・施工管理の仕事をしていました。  
A2: いろいろな建物や、設備が増えて驚きました。学生が生き生きしていますね。特に行事の時。  
A3: 主に読書。いろんなジャンルの本を読むのが好きです。  
A4: 慣れない仕事でご迷惑ばかりをおかけしておりますが、早くお役に立てるようがんばっていきたいと思います。よろしくお願いします。

## 人事交流教員紹介

本年度、人事交流教員として久留米高専から来られた宮崎先生に次の2つのことをお聞きしました。

Q1: 久留米高専と本校の違い

Q2: 2つの高専の学生の違い



電子情報工学科 准教授  
宮崎 浩一

A1: 有明高専は高台にあって周囲の山々や遠くに有明海を望むことができ、自然の中にあり静かで大変環境が良いと感じました。久留米高専は筑後川の畔にあって遠くに山々を望むことができますが、最近は周囲の開発が進んでスーパーや飲食店などが多くでき、多少騒がしくな

つてきています。最も大きく違いを感じたのは、チャイムと校内放送です。久留米高専ではチャイムはなく、放送による学生への連絡や学生の呼び出し等もなく、掲示板が担任を通して学生へ連絡しています。

A2: 寮生が大きな声でいいさつをするのは同じですが、有明高専では寮生以外でもいいさつをする学生が多いと感じました。高専特有のびのびとした生活感は同じだと思います。



## 4年生研修旅行

5月15日(火)-18日(金)



## 機械工学科

POSCO／ルノーサムスン自動車／サムスン電子広報館／景福宮・民族博物館

### 研修旅行報告 4M 柿原 大輝

4Mは大韓民国へ研修に行ってきました。

1日目は福岡から空路で韓国釜山へ向かい、釜山外国語大学の10名の方々と交流を兼ねて釜山市内の国際市場や西面といわれる繁華街の観光をしました。

2日目は韓国最大の製鉄業のPOSCOと年間30万台の生産を行うルノーサムスン自動車の工場を見学しました。両社とも日本のライバル企業であり就職してからは見ることができないと思うので、見学をすることができ貴重な体験になりました。ルノーサムスンの見学を終えた後、急ぎ足で釜山駅に向かい韓国新幹線KTXでソウルまで移動しました。日本の新幹線よりも静かで速いという印象を受けました。

3日目午前は北朝鮮との国境付近にある統一展望台・自由の橋へ行きました。数キロ先に見える陸地が北朝鮮だと思うと現実ではないような気持ちになりました。午後はサムスン電子広報館の見学に行きました。最新の電子機器が並べられていて、韓国の電子機器の最先端を知ることができました。夜は包丁やまな板などのキッチン器具を楽器として使う人気のNANTAという舞台を鑑賞しました。身近な料理道具を使ってのパフォーマンスに驚きながらも楽しくリフ

レッシュできました。

4日目は韓国の歴史に触れることができる景福宮・民族博物館などを見学しました。

韓国は日本と文化の違いがたくさんあるということを知ることができ、良い機会になりました。現地の食事ではカルビ焼き肉・海鮮鍋・うどんすき・ブルコギ・カルビタンを食べました。どれもおいしかったです。とても充実した4日間で、あっという間に終わってしまったという印象でした。



## 電気工学科

日本航空羽田整備工場／東芝浜川崎工場／日産自動車横浜工場／NHK放送センター

### 研修旅行について 4E 米田 宗次

私たち電気工学科は、神奈川県と東京都へ行きました。

1社目のJALと日本航空の羽田整備工場では、飛行機が飛ぶ原理とエンジン等の構造を知ることができ、間近で見た飛行機に圧倒されました。2社目は東芝浜川崎工場で、変圧器の大きさを小さくするための技術や変圧器の種類、歴史を知ることができました。3社目の日産自動車横浜工場では、エンジンを組み立てる作業の効率を上げるための工夫や、エンジン製造ラインでのロボットと人の作業分担を見学できました。4社目のNHKでは、どのようにしてテレビに放送しているかなど、テレビで見ることができない部分を見学できました。

今回の研修旅行で、就職や進学に対する考えがより一層深まりました。このような貴重な経験を生かしてこれからに活かしたいと思いました。



5月15日(火)-18日(金)

## 電子情報工学科

全日本空輸機体工場／花王川崎工場／東芝科学館／テルム入船事業所／未来科学館

### 研修旅行をおえて 4I 山下 りえ

私たちは東京へ行って様々な企業を見学してきました。

1日目、空港に着いた後にANA機体工場へお邪魔しました。ANAでは飛行機に関する様々なことを説明していただき、機体工場の中を見学しました。

飛行機には安全面はもちろん、私たちの目を楽しませるようなデザインを作っている等、様々な工夫が施されています。

2日目は、花王川崎工場、東芝科学館、テルムへ行きました。花王には高専の情報系の学科を卒業された先輩が働いていました。その先輩は情報学科で学んだことよりも考え方の方が大事であり、役に立ったと話していました。花王では衛生面にとても気を付けているように感じました。テルムは環境を第一に考えた企業で、リサイクル等を積極的に行っていました。工場内ではパソコンやエアコン等の電化製品の解体作業を行っており、様々な部品が分かれ流れています。

4日の日本未来科学館では最先端の技術や発明の発想時の着眼点等について展示しており、ボランティアの方の話も相まってわかりやすく楽しかったです。

今回の研修では、ものに対する考え方、工夫の仕方を学べたと思います。

とても充実した研修になりました。



## 物質工学科

ウッドランドサニーフーズ社／マリーナバラッジ／シンガポール・ポリテクニック校

### シンガポール研修を終えて 4C 竹下 美海

私たち4年物質工学科は、シンガポールへ研修旅行に行きました。シンガポールの町並みは美しく、建造物がたくさんあり、自然も豊富で、また様々な人種の人が多い、目に映るもの全てが新鮮で驚きの連続でした。マーライオン公園等を巡り観光を済ませた後、ウッドランドサニーフーズを訪問しました。日本を拠点とする不二製油グループに属する企業であり、私たちの食の根幹を学ぶことができました。

私がこの研修で一番印象に残っているのは、ポリテクの学生との交流です。言語の壁を感じさせないくらい親しみをもって接してくれて、ほんの数時間で肩を組むようになりました。人ってこんなわずかな時間でも仲良くなれるのだと思感動しました。他にも様々な経験をし、とても楽しく濃い日々を過ごしました。

シンガポールの文化に触れ、感動し、またそこから見えてくる日本の文化を再確認できたこの貴重な5日間は、忘ることのできない大切な思い出となりました。



## 建築学科

海遊館／大阪国際平和センター／法隆寺・唐招提寺・東大寺／竹中大工道具館／北野異人館／人と防災未来センター

### 関西地区研修旅行感想 4A 藤 愛美

私たち建築学科は5月15日～18日の4日間で関西で研修旅行に行きました。

研修内容として主に建物（現代建築や社寺仏閣など）見学を行いました。私も含めクラスメイトの多くが中学生の修学旅行で関西のさまざまな建物を見ていましたが、高専で建築を学んでから見る建物は以前と異なり、構造、外観、スケール、街との調和など建物を分析しながら見ていることに気づき、中学生の頃と比べて成長している自分に驚きました。

また、研修旅行では毎晩ミーティングが行われました。クラスメイトが建物見学で気づいた点を発表したのですが、同じ建物でも一人ひとりの視点が異なり、自分とは違う考え方や感性に驚きました。

普段は文章や写真を通じて勉強していますが、建物を実際に見て、ふれて、感じるという体感する学習によって建築

への理解をより深めることができたように感じました。



## 新入生阿蘇オリエンテーション



5月17日(木) - 19日(土)



### 阿蘇研修の反省

1M 松永 祐介

3日間、阿蘇で研修を行って、これから高専生活で大切なことを学ぶことができたと思います。

まず一つ目は、時間を見て行動することです。私たちは、初日から5分前行動をしっかりとすることができます。スケジュールは計画通りスムーズに進んでいました。これを高専生活でも活かして、常に5分前行動ができるようにしたいです。

二つ目は、友達の大切さです。私はこの研修で今まであまり話していない人ともたくさん話すことができました。そして2日目のオリエンテーリングでは、友達と協力してがんばりました。これからの高専生活でも球技大会や高専祭等たくさんの行事があるので、友達と協力してがんばります。

んばかりたいです。

三つ目は、学習面についてです。この研修で4人の先生から講話を受けて、もっと真剣に勉強に取り組まないといけないと思いました。入学して1ヶ月が過ぎて、この高専生活に慣れてきてしまったせいか、授業で寝てしまうことが多くなり、帰っても課題をする程度で、予習・復習等ほとんどしていませんでした。しかし、今回の講話を聞いて、1年生でつまづくとそれからずっとつまづいたままになるので、もっとがんばらないといけないと思いました。とくに英語は、最初のテストで悪い点数でした。私は、工業用英語は必要ないだろうと思っていたが、英語は将来必ず役立つと言われたので、これから真剣にがんばりたいです。

これからの高専生活は、今回の研修で学んだことを活かして、気を引き締めてがんばっていきたいです。



### 阿蘇研修を通して

1C 有働 紗里

私は、今回の阿蘇研修で目的である集団生活のマナーを覚えること、学校生活のルールを覚えること、級友との友情を深めクラスの連帯意識を高めることの3つをしっかりと身に付けることができました。

校歌の練習では、初めてこんな大きな声で校歌を歌いました。テキパキとした行動や返事も指導され、厳しいと感じることも多かったけれど、これが当たり前にできないと集団生活で迷惑をかけてしまうと思いました。言われなくても当たり前でできるように学校に帰っても続けていきたいです。

また2日目は、オリエンテーリングがあり、班で協力しながら進んでいくことで、友達との絆が深まりました。きつい

ときには、班内で声をかけたり、自分の考えを言う等のコミュニケーションをとったりして、協力することの大切さを改めて感じることができました。このオリエンテーリングのおかげで、今まであまり話したことがない人とも話せたり、本当はこういう人なんだという新しい発見がありました。

この大自然の中で過ごした3日間の阿蘇研修は私を成長させてくれました。普段は優しい団長さんも厳しく指導してくださいました。今後、研修で指導されたこと、各活動で学んだことを忘れずに生活していきたいと思います。また、これから、クラスごとにまとまり、学年でまとまりしないといけないときがたくさんあると思います。そのときは、この阿蘇研修を思い出し、学校生活に活かしていくようにがんばります。



## 2年生研修

混合学級クラス編成の2年生は、「教養を高め、社会性を身につける」と「クラスの親睦」を目的に、九州国立博物館とその周辺の見学の研修を行っています。

1組：4月25日(水)  
2組：5月 8日(火)  
3組：4月27日(金)  
4組：5月 9日(水)  
5組：4月17日(火)



### 全体の感想

- 研修旅行では友達を増やすことができたと思います。博物館の中で一緒に見学したり、いろいろなところを見て回るうちに友情も深まり、良いクラスになれたように感じました。これからもクラスでの問題や個人の問題など、いろいろなことが起こると思います。でも、そのような時でも今回の研修で培った友情で乗り越えていきたいです。本当に今回の研修は楽しかったし、ためになる研修だったと思います。
- 今回の研修で、アジア・世界の文化や歴史を学ぶことができた。様々な展示物があり、とても興味を惹かれた。班別活動に関しては、まだ話したことのない友達と話すことができ、とても充実した研修だった。
- 太宰府の町は外国人観光客が多く見られた。特に、多くの韓国人が見受けられた。この時期は他の学校の生徒もいて積極的に話しかけてくれたので交流を楽しめた。太宰府はラーメンがおいしいと言うことで、昼はラーメンを食べた。ラーメンを食べていると隣のおじさんに話しかけられ、食べ終えるまで長々と話してしまった。知らない人との交流が多くあり、楽しい研修旅行だった。



### 参道について

太宰府天満宮の参道は人の活気で溢れていった。梅ヶ枝餅や名物のお菓子、土産店が建ち並んでいる。驚いたのは外国人観光客の多さだ。聞き慣れない言葉が飛び交っていたが、日本のよいところを知ってもらっているようで嬉しかった。天満宮とその参道には独特の美しさや雰囲気があり、日本人の私でさえも圧倒されたからだ。実を言うと、天満宮を参拝するのも、太宰府に行くものこれが初めてだったので、今回の研修で行けて良かった。是非またゆっくり訪れてみたい。

### 太宰府天満宮本殿について

本殿には大きな賽銭箱があり、奥にはきれいな鏡が祀ってあった。内装はとてもきれいで感動した。高専受験のお礼参りと定期試験についてお参りした。

### 神牛について

太宰府天満宮の境内の中であちらこちらに見られた。自身と神牛の同じ部分を互いに撫でると、病気が全快すると云われ、神牛の頭をさすると知恵がつくという信仰があるということだったが、そのことを知らないので神牛に触れることもなかった。次に行くときは頭をさすりたいと思った。



## 新入生歓迎行事

4月20日(金) 学生会長 5A 角田 雅季

4月20日(金)に、毎年恒例の新入生歓迎行事が行われました。この行事は新入生が在校生に向けて声を張り上げて自己紹介をし、個人やグループでパフォーマンスを行うもので、新入生にとっては、緊張しながらも学校や各学科の雰囲気を感じられる良い機会です。また、在校生にとっても、新入生の初々しい姿を見て初心を振り返り、改めて先輩という自覚が芽生える良い機会となつたはずです。私が1年生のときは、女子全員で円周率を暗記して数桁ずつ言っていく予定でしたが、先輩方の温かい手拍子がだんだん早くなり過ぎて、後半は全く聞こえないという結果でした。これも今では良い思い出です。

新入生のみなさん、まずは挨拶からはじめ、どんどんコミュニケーションをとっていくください。そして、多くの人と関わりながら高専生活を楽しんでください。

また、今年は2年に一度の高専祭が11月3・4日に控えています。学科の絆、団結力が必要不可欠になってきます。一人ひとりが学科の一員であることを自覚し、有明高専らしい高専祭にしましょう。



## 防災避難訓練

5月1日(火) 広報室 坂西 文俊

5月1日(火)、防災避難訓練が行われました。

7限終了と同時に地震発生、その後、電気工学科で火災発生という想定のもと、全学生と教職員が、授業の教員の誘導等により、グラウンドに避難・集合しました。

グラウンドでは、消火器の操作の説明を聞いた後、各学科に分かれて、学生・教職員代表数名ずつにより、消防作業の実体験とその見学を行いました。



## 授業参観等

5月2日(水) 広報室 坂西 文俊

5月2日(水)5・6限目に、授業参観が行われ、保護者の皆様に、本校の日頃の授業の様子を見ていいただきました。

7限目は、第1体育館で後援会総会が行われ、本校の現況の報告等もなされました。



## 岱明寮だより

### 寮生指導者研修会 in 岱明寮

4月3日(火)、寮生指導者研修会が銀杏棟研修室にて行われました。寮生会役員をはじめ、寮務主事室、寮務委員、寮務係の合計42名が参加し、寮生遵守事項の確認、寮生会からの要望、主事室からの提案、重点目標や寮の運営方針等について、意見交換を行いました。



充実した研修を終え、満開の桜と共に

寮務主事補 岩下 勉

### 入寮式・入寮オリエンテーション

4月6日(金)12:10より、視聴覚室にて入寮式が行われました。1年生82名、4年次編入生9名、3年次留学生2名の合計93名の入寮許可後、校長・保護者会会長より挨拶がありました。入寮オリエンテーションでは、寮務主事挨拶、寮生活についての説明、寮生会役員の紹介等がありました。



説明に耳を傾ける新入寮生



入寮式を終え、指導寮生について寮へ

### 今年度の重点目標

### 自己管理の徹底

寮長 5I高田翔太君より、今年度の岱明寮の重点目標が寮生総会で発表されました。

### 新入寮生歓迎夕食会

4月10日(火)、寮食堂にて新入寮生歓迎夕食会が行われました。新入寮生93名が在寮生の拍手に迎えられて入場しました。校長挨拶、出席教職員紹介の後、会食が始まりました。その後、新入寮生の自己紹介が行われました。



歓迎夕食会の1コマ



1年生が元気に自己紹介



留学生も自己紹介





## M科 学生が荒尾駅前の万田坑のモニュメントを設計

M科 篠崎 烈

4月8日、荒尾駅前に『万田坑第二豊坑やぐらのモニュメント』が完成しました。荒尾市制70周年を記念して荒尾市役所により企画されたもので、本校機械工学科の学生が卒業研究の一環としてモニュメントの企画および設計を行い、地元企業で組織されたプロジェクトメンバーが共同で製作しました。設計は、昨年度の5Mの田代尚之君と中山賢作君で、2011年7月から卒業研究として取り組みました。設計したモニュメントは、実物の約1/5の大きさで、高さ約4m、総重量4.1tと、これまでの卒業研究でも最大の開発品です。「100年以上の歴史を持ち、地元を支えてきた技術を伝えられるものを、地元の技術を集めて作りたい!」というコンセプトで設計されたモニュメントは、現在、荒尾駅の新しいシンボルとなっています。



## 高専女子フォーラム2012

C科 藤本 大輔

3月27日(火)に東京の学術総合センターにて高専女子フォーラムが開催され、本校より4名の女子学生(1年生・3年生各1名、5年生2名)が参加しました。高専女子フォーラムでは、全国8高専の女子学生たちが協力して高専女子学生の魅力をまとめた『高専女子百科』の内容を中心に、来場した企業の方々や各高専の教職員などに対して、女子学生がプレゼンを行いました。『高専女子百科』は、機械、電気、情報、化学・生物、建築、経営の7分野で構成されており、本校は電気系と化学系を担当しました。

プレゼンでは学生の学年ごとの成長ストーリーや高専女子の学校での生活スタイルなどを紹介し、多くの来場者の方に高専女子の魅力をアピールしました。



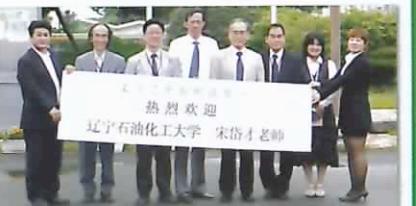
## 中国から宋先生来校

国際交流委員長 安部 規子

本校が姉妹校提携をしている中国の遼寧石油化工大学から、宋岱才先生が5月10日(木)に来校され、24日(木)まで滞在されました。

宋先生は数学の先生ですが、多くの授業(社会学、物理学実験、機械実習、工学基礎Ⅲ等)を見学され、とくに実験や実習の授業には感銘をうけておられました。

また、1年生の阿蘇研修にも同行され、オリエンテーリングでは1年生が「你好(ニーハオ)」と挨拶してくれることに感動しておられました。



## 高巣先生が黄綬褒章受賞

広報室 松岡 高弘

本校建築学科で長年非常勤講師をしていた高巣設計事務所の高巣光男先生は、多年建築等設計管理業に従事し、その発展に尽力したことについて黄綬褒章を受賞されました。



## 編集後記

広報室 牛島 直史

今年も入学式の日に校内の桜は満開になり、先日は校内のツツジが赤・桃・白の花をつけました。

さて、福島の事故後、イスラエルは原発に対する安全対策をあらゆる面から模索し、コストがかかりすぎる場合には廃止することにしています。アメリカは、水素を排出する新たな排出弁を設置するなど対策を模索しています。日本は、多方面からの長期的な議論を先に送り、とりあえず電力不足解消のため、原発の再稼働を決定しました。「生活の利便性・生産活動の維持」と「発生が不確実な災害に対する安全対策」、技術者を目指す皆さんのが決定者ならば、どちらを優先させる決定をしますか?

来年も、日本中がこれまでと同じ気持ちで満開の桜を見れるといいですね。

有明高専だより 第137号

平成24年6月28日

編集:有明高専広報室  
発行:有明工業高等専門学校  
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944-53-8861(学生課)  
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を-Here are Lights-

